

**Bhajju
Shyam**
KYOTO
バジュー・シャーム・キョウト

Exhibition Report

Bhajju Shyam KYOTO 開催のご報告

バッジュ・シャーム・キョウト実行委員会は、2023年8月11日（金・祝）から8月29日（火）にかけて、展覧会「バッジュ・シャーム・キョウト」を世界遺産 真言宗総本山 東寺・食堂（じきどう）にて開催しました。

本展は、インド現代ゴンド・アートの第一人者であり、日本の国民栄誉賞に相当するインドの“パドマ・シュリ”受賞作家、バッジュ・シャームの初来日個展です。“森の民”とも呼ばれるインド中部の少数民族、ゴンド族出身の彼は、トライバルアーティストでありながら現代的なフィーリングも併せ持つ“現代ゴンド・アーティスト”として進化を続けており、インドの出版社“タラブックス”からの作品出版をはじめ、インド国内外で目覚ましい活躍を遂げています。本展では描き下ろしの新作や未発表作品を含む、2010年以降に制作された約40作品を体系的に展示し、バッジュ作品の豊かな色彩や大胆な構図、ユニークなモチーフ、緻密な点と線の描写や多様な物語性の魅力を多くの方々に触れていただきました。また、本展に伴い初来日を果たしたバッジュ・シャームは、会期を通して京都にてアーティスト・イン・レジデンスを行い、京都の文化に触れた体験をもとに新作を制作しました。

本レポートにて、熱気に溢れた18日間となったバッジュ・シャーム・キョウトの一端をお伝えできれば幸いです。バッジュ・シャーム・キョウト実行委員会は、本展の成果と課題を活かし、今後も日本とインドとの文化交流や相互の文化芸術への発展に寄与してまいりたいと考えています。本展の開催にあたり、多大なるご支援、ご協力を賜りました関係各位に心より御礼申し上げます。また、今後ともバッジュ・シャーム・キョウトへのご高配を賜りますようお願い申し上げます。

バッジュ・シャーム・キョウト実行委員会

開催概要

展覧会タイトル | Bhajju Shyam KYOTO (バッジュ・シャーム・キョウト)

会期 | 2023年8月11日(金・祝)～8月29日(火) ※8月15日(火)は台風7号の影響により休場

会場 | 世界遺産 真言宗総本山 東寺 [教王護国寺] ・食堂 (じきどう)

住所 | 京都市南区九条町1番地

開館時間 | 9:30～16:30

入場料 | 無料

URL | <https://bhajju-shyam.jp>

Instagram | @bhajjushyam-kyoto

来場者数 | 9,680名 (内覧会含む)

主催 | バッジュ・シャーム・キョウト実行委員会 (JAPANDIA、VISIONS)

企画 | JAPANDIA、VISIONS

協賛 | 京都信用金庫、宗教法人 日本ヨーガ禅道院、THE SWEETS CARAMEL SAND COOKIES

特別協力 | 河岸ホテル、Indian Restaurant Thilaga.

協力 | 京都市動物園

後援 | 京都市、京都市教育委員会、エフエム京都、KBS京都、在大阪・神戸インド総領事館、NPO 法人 日本インド文化経済センター (NICE)

Exhibition

本展の会場となったのは、世界遺産 真言宗総本山 東寺・食堂（じきどう）。東寺は今秋、真言宗立教開宗1200年記念を迎え、本展はその記念行事の一環として開催された。

平安時代からの床も残される食堂（じきどう）内に、波板と木材を用いて新たな展示空間を構築し、2010年以降の作品37点及び映像資料2点を展示。

作品選定は、かねてよりバジュー・シャームと親交があり、2019年にバジュー・シャームとの共著『Origins of Art - The Gond Village of Patangarh』をタラブックスから出版している写真家/編集者の松岡宏大（KAILAS）が担当した。

会場設計/施工は、京都を拠点に活動するデザインファーム・New Domainが担当。古材が用いられ、作品の世界と深く調和した額は、岡山の額作家・kinowaが制作した。作品のキャプションは日本語・英語・ヒンディー語の3ヶ国語表記とした。

展示会場は1日あたり平均500人以上の来場があるなど連日大きな賑わいをみせたほか、作品の一部は展示のほか販売も行われたが、大半が早々にソールドとなるなど、日本初の個展開催でありながらも来場者の高い熱量を感じさせた。





Photo:Helvetica

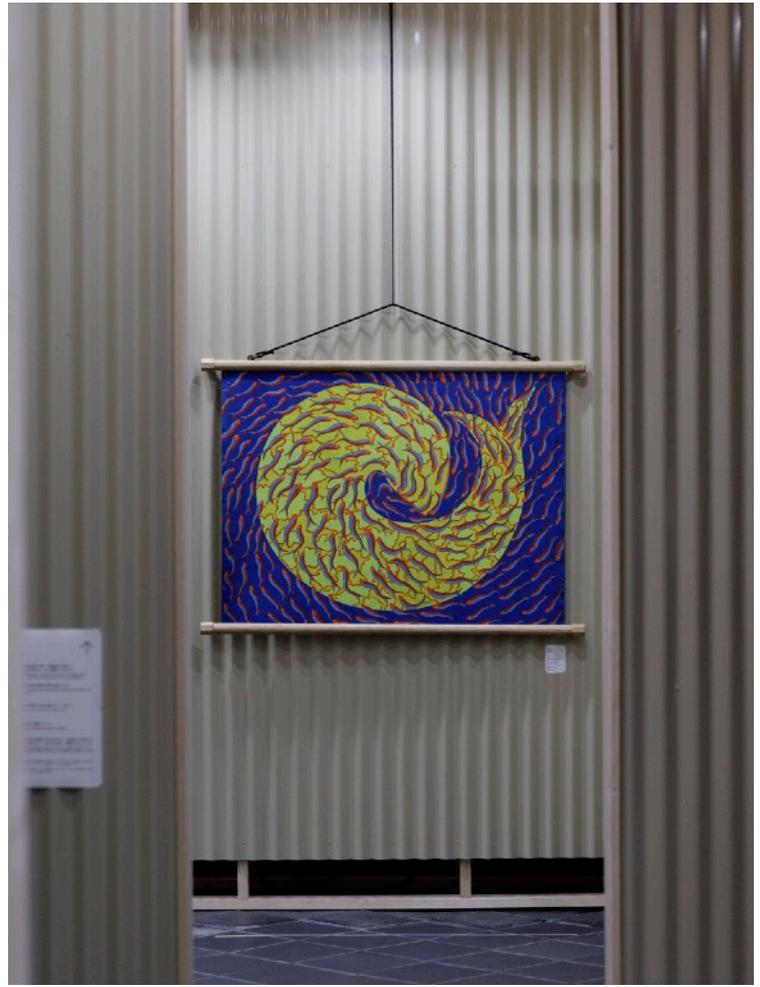
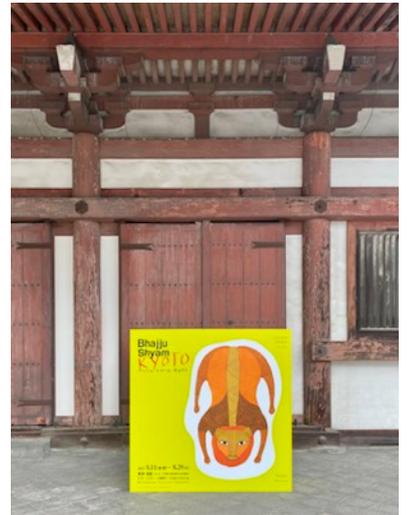


Photo:Helvetica





Artist in Residence

今回初来日となったバッシュ・シャームは、会期中、京都中央卸売市場場外にあるアートホテル 河岸ホテル (KAGANHOTEL) に滞在。滞在中には京都各地にも訪問し、その体験を基に、京文化等をモチーフにした作品制作を行なった。



Event

内覧会（プレス・関係者向け）

日時 2023年8月10日（木） 11:00～ 16:00

会場 東寺・食堂（じきどう）

参加人数 44名

レセプション・パーティー

日時 2023年8月10日（木） 18:00～20:00（OPEN 17:30）

会場 QUESTION ビル 8 階 DAIDOKORO（京都信用金庫）

- 内容
- ・ Indian Restaurant Thilaga.による立食ビュッフェ
 - ・ 石濱匡雄（シタール）と林怜王（タブラ）によるインド古典音楽ライブ
 - ・ 展覧会グッズの先行販売
 - ・ バッジ・シャーム サイン会



サイン会

日時 会期中随時

会場 東寺・食堂（じきどう）



トークショー

日時 8月26日（土）14:00～17:00（OPEN 13:30）

会場 QUESTIONビル 4階

入場料 無料

定員 50名（予約制・申込先着順）

※満席

内容

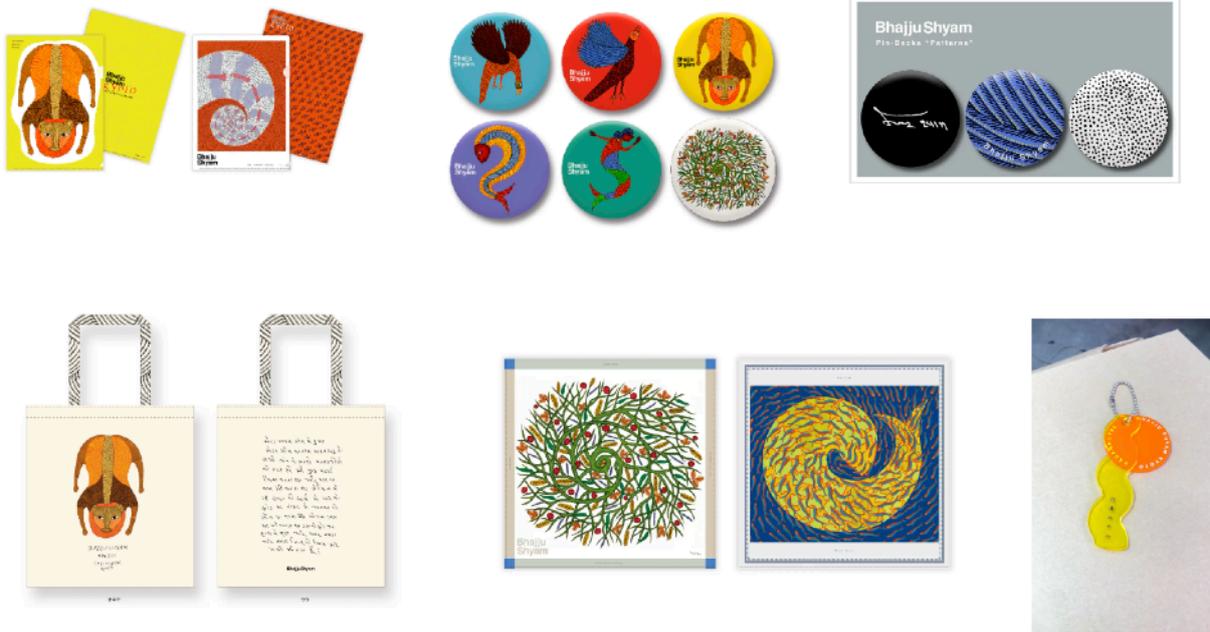
- ・ナカガワユウジ(サーランギー)とグレン・ニービス(タブラー)によるインド古典音楽ライブ
- ・バッジュ・シャームと坂本英房(京都市動物園 園長)によるトークショー『日本とインドの動物と自然観』
- ・ティータイム (Indian Restaurant Thilaga.によるチャイ&スナック提供)
- ・バッジュ・シャーム サイン会



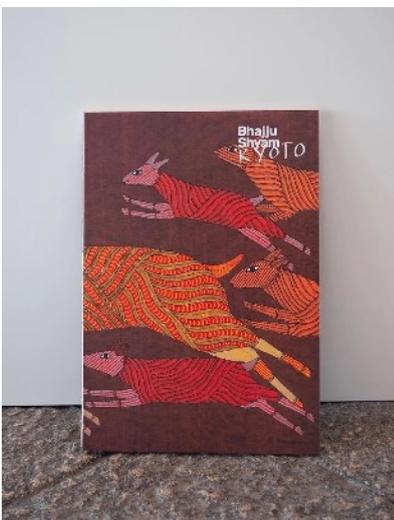
GOODS

複製原画や図録のほか、オリジナルグッズを販売するポップアップショップも食堂内にオープン。ポストカードやクリアファイルなどのスタンダードアイテムに加え、コラボレーショングッズとして、様々なストーリーを持つイマジネーションの世界から生み出されるモノづくりを発信するアパレルブランド「BRÚ NA BÓINNE（ブルーナボイン）」と本展とのTシャツや、京都の新たなアートスポットとして注目を集める現代アートホテル「KAGANHOTEL（河岸ホテル）」とのキーホルダーなどを製作。幅広いグッズを展開した。

グッズ一例



展覧会図録



全64ページ

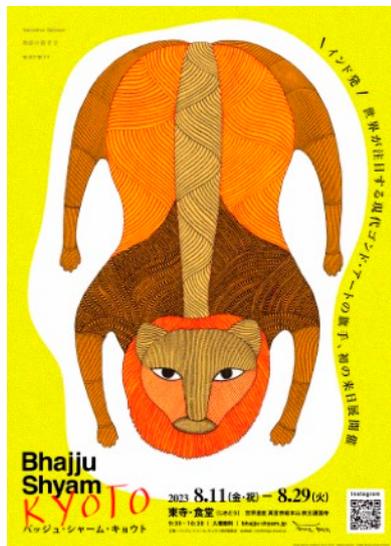
編集：森川聖子、VISIONS

デザイン：森川聖子

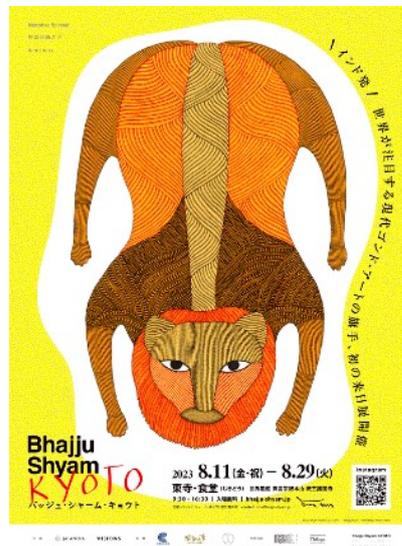
PR

広報物

フライヤー



ポスター



バス停広告



Webサイト (https://bhajju-shyam.jp)



Instagram (@bhajjushyam-kyoto)



プレスリリース



メディア掲載

Online

記事掲載：AROUND INDIA、CONFORT、Kyoto Art Box、SPUR.JP、Subsequence、TEXTURE MAG、YAHOO!JAPANニュース、京都で遊ぼうART
プレスリリース転載/参照：107媒体



Offline

読売新聞、京都新聞、文化時報 他仏教関連紙2紙
α-STATION FM KYOTO 「NEWSROOM α」、Meets Regional 9月号



Profile

バッジュ・シャーム

Bhajju Shyam

(1971-)



Photo:Helvetica

インド中部の森にあるゴンド族の村 パタンガル生まれ。ゴンド族に伝わる表現や物語を受け継ぎながら自身の視点で昇華し、現代的な感覚やシンプルなストーリーテリングを交えて表現することで、師匠であり叔父であるジャンガル・シン・シャームが確立した現代ゴンド・アートの表現を拡張し続けている。

1998年パリ装飾美術館でのグループ展参加を皮切りに、ロンドン、ベルリン、ミラノ、オランダなど世界各国の美術館やギャラリーで個展やグループ展が開催されている。代表作に、南インドの出版社タラブックスと制作し世界8ヶ国語に翻訳されている『The Night Life of Trees』（ドゥルガー・バーイー、ラーム・シン・ウルヴェーティとの共著。邦訳：『夜の木』青木恵都訳、タムラ堂、2012年）をはじめ、『Creation』（邦訳：『世界のはじまり』ギター・ヴォルフ文、青木恵都訳、タムラ堂、2015年）、『The London Jungle Book』（邦訳：『ロンドン・ジャングルブック』ギター・ヴォルフ、シリシュ・ラオ文、スラニー京子訳、三輪舎、2019年）など。2018年には日本の国民栄誉賞に相当するパドマ・シュリ賞をゴンド・アーティストとして初めて受賞し、インド政府から表彰された。2023年には日本初となる個展「Bhajju Shyam KYOTO」が世界遺産・東寺（京都）にて開催され、19日間の開催で延べ約1万人が来場したほか、本人も初来日を果たし、アーティスト・イン・レジデンスにて京都や日本文化をテーマとした作品を制作した。

〈事務局・問い合わせ先〉
バッジュ・シャーム・キョウト実行委員会 事務局
Mail info@bhajju-shyam.jp
TEL 03-6276-1417 FAX 03-6276-1410